

愛の便り

校訓: 志が人生を創る

雲仙市立愛野中学校 学校便り

令和6年 9月13日

第97号

文責 (校長; 末永栄喜)



尋常ではない残暑 いつまで続く!?

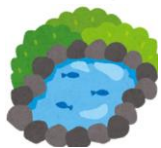
2学期が始まって2週間が過ぎました。簡単に「残暑」では済まされないほどの「猛暑」が続き、毎日の天気予報を見るたびにため息か出ないほどです。それでも、子どもたちは元気に過ごしています。



か、中には熱中症と見られる症状で体調を崩す生徒もいます。修学旅行まで1か月、駅伝大会まで3週間を切りました。また、今月は3連休が2回もあり、各部では新チームによる各種大会や新人大会、強化練習会、そして吹奏楽部は、来週末に2回目の定期演奏会も予定されています。

油断大敵の天気と同様、感染症も油断は禁物です。先生方を通じて、引き続き**予防と用心、異変を感じたときの申し出**などを促したところ。先日の生徒集会でも、これまでの経験と学習から学んだ**予防対策の徹底と誹謗中傷をしない**ことを直接、生徒に伝えたところです。ご家庭でも、**睡眠と栄養・休養の声掛けや協力**をお願いします。

また、今週の火曜日には来月末の合唱コンクールに向けて第1回目の実行委員会も開かれました。学校行事目白押し of 今学期ですが、確実にその準備が進んでいます。さて、自分の役割は何ですか。何をいつまでに仕上げておきますか。**逆算力を発揮して、納得のいく結果と成果を出したい**ものです。



蛇足ですが、先月末の台風からわずか10日余りで、「希望の池」がまた枯渇してしまいました。着任して3年目になりますが初めてのことで。素人の修復には限界がありそうです。もはや、専門業者への修理依頼も考えなければいけない状況です。「希望と癒し」の象徴である池をどうか甦らせたいと思案中です。

今夏の暑さに負けず、イモの苗は順調



茶摘みは「**十八夜**(はちじゅうはちや)」、台風は「**二百十日**(にひゃくとおか)」と昔から言われています。



この二つはいずれも、**節分(2月4日頃)から数えた日数**です。

では、**サツマイモ(の収穫)**は「**百十日(ひゃくとおか)**」ということをご存知でしょうか。ただし、茶摘みと台風との違いは節分から数えるのではなく、あくまでも苗の植え付けから数えます。学校農園に苗を植えたのが6月20日でした。この日に110日を足してみてください。3か月ちょっとですから、収穫は10月の中旬頃になりそうです。収穫が楽しみです。

下の写真は、先日テレビでも紹介の放映があった第78回 国民スポーツ大会・第23回全国障害者スポーツ大会の壮行式の様子です。本校の**高橋由汰さん(2年)**が、県選手団の一員に見事選出され参加してきました。10月24、25日に佐賀市で行われる本大会に、卓球競技の部で出場が決定しています。

パリ・オリンピックに続いて行われたパラリンピックは、今回も日本選手団の活躍が目立ち、感動と勇気を与えてくれたことは記憶に新しいことです。由汰さんの活躍を期待して



います。頑張ってください。

校長室の窓から

何を教えるか?

元来、読書を苦手とする(億劫がる)私です。これぞと思って本を購入しても、しばらくは本棚に飾ったままというのが多々あります。購入で満足して終わってしまう。目次に目を通して、その中から一つ二つ読めばいいほうなのです。恥ずかしながら、数年前に購入した本すら完読できていません。専ら、ジャンルは教育書が多いのですが、...

そんな私ですが、数少ない(今もたまに目を通して)本の中でお気に入りの本があります。それは、「**教えられること 教えられないこと**」(明石要一著 さくら社)という本です。

その「序」は「『**長嶋的**』と『**野村的**』』というタイトルでした。教員という立場から本のタイトルに惹かれたのですが、世代的にもこの「序」の内容に興味をそそられ、即買いたのを感じています。

いつものように前置きが長くなりましたが、ここからが本題です。九章構成でその中にもたくさんの項があります。どれも興味をそそる内容ばかりです。今回紹介したいのはその中でも「『**教える**』と『**育てる**』の違い」という本論の初っ端に書いてあった内容です。

「**教えること**」は本来保守的な行為と言う筆者ですが、社会の変化、価値の多様化、科学技術の進歩が著しい時代の今、教える内容と教え方が見えなくなっている。お手下本が消えてしまっていると断言しています。そして、「**才能**」は教えることができない。引き出すものだ。引き出して育てるものだと主張しています。どういう状況の元で、どんなタイミングで、どのような言葉をかければ人のやる気が生まれるのか、大いに検討に値するとも。

人を育てるのが上手だった野村克也さん。「**財を遺すは下、仕事を遺すは中、人を遺すは上とする**」(引用)という言葉が大切になさっていたそうです。教職に携わる私たちにとって、考えさせられる言葉でした。

